

一枚の絵葉書から 第57回 石井敏夫コレクションより

第十四師団点景

「軍縮に因りいざさらば」と書かれた
歩兵第六十六連隊の絵葉書



第十四師団は栃木、茨城、

群馬三県を管轄した。そのため
栃木県外に駐屯した部隊も少
なくない。水戸に歩兵第二十七
旅団司令部、歩兵第二連隊、
工兵第十四大隊が、高崎には歩
兵第十五連隊が駐屯した。徴
兵事務を担当する連隊区司令
部は、宇都宮のほか高崎、水
戸、埼玉県熊谷に設置された。
のちに長野県も管轄下に置き、
松本に駐屯する歩兵第五十連

隊を編入。文字通り北
関東を警護する精鋭師
団だった。

宇都宮に駐屯してい
た部隊は、師団司令部
の下、歩兵第二十八旅
団司令部を筆頭に歩
兵第五十九連隊、歩
兵第六十六連隊、野
砲兵第二十連隊、騎
兵第十八連隊、輜
重兵第十四大隊、輜
憲兵司令部がこれ
に続いた。

歩兵第六十六連
隊は、近衛歩兵
第二連隊、新潟
県の新発田歩兵
連隊から選抜



[写真/上]「輜重兵第十四大隊営門と立哨する兵士」
[写真/中]「野砲兵第二十連隊営門」
[写真/下]「営門を出発する騎兵第一八連隊の一回

された精鋭千五百人で編成。

第十四師団宇都宮常駐と同時
に誕生した部隊である。隣接
した歩兵第五十九連隊と全て
において日夜競争に明け暮れ、
「ろくろく(六六)休みもとれ
ない連隊」といわれた。しかし、
一九二五(大正十四)年五月二十
日、軍縮の波をまともにかぶり
廃止された。『昔日の宇都宮』
塙静夫)

輜重兵第十四大隊は食糧な
ど物資輸送を任務とし、騎兵
第十八連隊は俊足を生かした
機動部隊。野砲兵第二十連隊
は、師団誕生とともに九州の小
倉で生まれた。日露戦争に出
兵した戦歴を持ち、重兵器を
扱う猛者の集団だった。